

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立江戸川高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)
- (2) 事務局の構成:4名
副校長／主幹教諭(教務部主任)－事務局長／主任教諭(生徒部主任)／主任教諭(進路部主任)
- (3) 内部委員の構成:9名
校長／副校長／経営企画室長／主幹教諭(教務部)／主任教諭(生徒部)／主任教諭(進路部)
主任教諭(第1学年主任)／主幹教諭(第2学年主任)／主任教諭(第3学年主任)
- (4) 外部委員の構成:11名
同窓会会長／蓮葉会副会長／PTA会長／菱野会会長／江友会会長／江友会副会長
近隣中学校長／近隣自治会長2名／近隣保育園長／有識者(教育)

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の概要
 - 第1回 令和3年5月7日(金) 書面開催
協議委員の文書での委嘱／評価委員の文書での依頼／令和3年度の取り組みについて
学校経営方針／各分掌・学年の概況及び令和2年度の取り組みについて
意見は電話・郵送で集約
 - 第2回 令和3年11月5日(金) 内部委員:9名／外部委員:5名
第1回協議会の意見に対する報告／各分掌・学年のこれまでの取り組みについて
「江戸川高校の教育活動点検アンケート」の実施について／意見交換
 - 第3回 令和4年2月4日(金) 書面開催
第2回協議会の報告／各分掌・学年のこれまでの取り組みについて
「江戸川高校の教育活動点検アンケート」の実施結果について／意見は電話・郵送で集約

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点と主な内容
学校生活全般／学習指導／行事・生活指導／進路指導／地域との関わり
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
12月～1月 全校生徒 対象:997名 回収:782名 回収率:78.4%
12月～1月 全保護者 配布:997名 回収:485名 回収率:48.6%
12月～1月 全教職員 対象:51名 回収:51名 回収率:100.0%
12月～1月 地域 配布:150名 回収:36名 回収率:24.0%
- (3) 主な評価項目
学校生活全般……学校経営計画／学校生活の楽しさ／HPの閲覧状況／業務削減
学習指導……授業・家庭学習・習熟度別授業・年間授業計画・成績の基準
行事・生活指導……行事の充実度・部活動の取り組み状況・生活規律・教育相談
進路指導……生徒の適性や希望を活かした指導・進路資料の活用・講習と補習
地域との関わり……施設開放／地域活動への参加／社会奉仕活動の取組み／校外の生徒の様子
- (4) 評価結果の概要(学校への意見・提言)
 - ア 今年度もコロナ禍で、行事が部活動が縮小された状況の実施であったこともあり、「部活動が活発である」と回答したのは半数となり、「行事が盛ん」と回答した者については3割程度となった。
 - イ 教職員の7割近くが昨年度に引き続き、「業務の効率化・削減」について「縮減していると思わない」と回答している。
 - ウ 授業以外の学力向上については、教職員・保護者では「補習・個別指導」、「小テスト」が効果があると回答しているが、約6割の生徒は「小テスト」が効果があると回答している。
 - エ 保護者の6割近くが「成績・評価がどのような基準でつけられているか」を知らない。
- (5) 評価結果の分析・考察(学校への意見・提言)
 - ア 江戸川高校の魅力と言っても過言ではない学校行事について、今年度は学年別での実施となった。全く実施できなかった昨年度の状況に比べ、生徒にとっては充実感があったと考えられる。しかしながら、行事が盛んと考えられる生徒の減少は憂慮すべき点である。
 - イ 業務の効率化、スリム化など学校全体としての組織的な改善を図る必要がある。
 - ウ 生徒にとって、小テストのような範囲が決まっていて、かつ分量がさほど多くないことを繰り返す学習法は効果的に感じているようである。無理なく取り組める課題や、自分の伸びを実感できるような課題設定を好む傾向があるといえる。教科会などで、どのような課題をどの程度出すかを決め、共有する必要がある。できれば教科を超えて、課題のレベルや量のバランスを調整することができると良い。
 - エ 来年度からは観点別評価に変わることから、保護者の方々の意識の変革も求められる。生徒の力を伸ばすことにおいて、適正な評価基準を設定することは不可欠であるが、教員・生徒・保護者の3者が、現状と課題を共有して連携するうえでも、評価基準の理解をしておく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

- ア 今年度は、感染状況を鑑みて学校行事の実施など対応することができた。来年度についても、感染症の影響が出ると考えられる。早い段階から、「何がどのように」「どのくらいできるのか」などを考えさせ、状況に応じ対応をする必要があり、その中でも達成感を味わうことができる内容を考慮したい。

令和3年度学校運営連絡協議会

- イ 業務の効率化やスリム化については同じことを毎年繰り返すだけでなく、ICTの活用等によるデータ共有や会議の時間短縮など、あらたな手法を用いる必要があると考える。
- ウ 生徒の学力向上と進路実現のためには、教員間の意識向上や情報共有を含め、教科会の実施は大切であるといえる。具体的にどのようなことをすればいいかまで踏み込んで共有することができた。
- エ 意識を変える必要があるのは学校側だけではないということが、保護者の代表もいる中で共有されたことは大きな成果である。各教科の評価基準のみならず、学校のシステムをきちんと把握することによって、教員と保護者が、建設的な話し合いのすることの土台ともなる。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

(1) 学校運営

ア 思考力・判断力・表現力の伸長を重要視する新教育課程の導入に合わせて、教科会でやるべきことを定め、組織的に教科会を実施する。

イ 業務の効率化・削減に向けて、具体的に何ができるかを考えていく。

(2) 学習指導

各教員の授業力を向上させる研修の機会を設ける。

(3) 特別活動

学校行事に、今まで以上に主体的に取り組ませ、思考力・判断力・表現力を総合的に高める。

(4) 生活指導

自転車に係る事故防止とマナー向上について、生徒に考えさせる取組みをする。

SNSの使用によるトラブル回避や悪影響防止をについて、生徒に考えさせる取組みをする

(5) 進路指導

ア 進路指導に係る3年間の計画を、新学習指導要領や高大接続改革に即した形で、進路部が主体となって再構築する。

イ「総合的な探求の時間」の内容をブラッシュアップしていく。

(6) 健康・安全

大雨による河川の氾濫を想定して、適切な避難行動をとれるように、生徒一人ひとりの行動力や対応力を高める取組みをする。

6 「学校が良くなった」と考える地域社会の割合

(1) 学校が良くなったと答えた地域社会の割合

そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない
5.6%	36.1%	8.3%	0.0%	50.0%

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回